

提案企画書 Cグループ

事業名	イノベーション～これからの時代に応える市役所に～
事 目 業 的	<p>平成17年に1市3町が合併し現在の二本松市となったが、その人口の推移は平成17年の63,178人をピークとし、平成29年には56,641人と、10.34%（6,537人）減少している。生産年齢人口についてみても、38,794人から32,103人へとになっており、17.24%（6,691人）もの減少となっている。</p> <p>また、平成29年度の財政状況をみると、財政力指数は0.44と13市の中で10番目に低い数値であり、経常収支比率も92.2%と政策的経費にあてられる予算が少ない（平成29年度は13億4782万円）。令和2年度は合併算定替えにより普通交付税が8億円減少するため、単純計算では平成29年度比59.4%減の5億4782万円とさらに少なくなっていく。</p> <p>人口や交付税の減少は、税制状況の悪化→サービスの低下→人口減少→税制状況の悪化…という負のスパイラルを引き起こす可能性が高い。今後も二本松市という自治体を存続させ、魅力あるまちへと発展させていくためには、人口増加・財政状況の改善（根本的な問題解決）、公共サービス提供レベルの維持（暫定的な対処）が必須である。</p> <p>そのために、「今（これから）自治体に求められるサービス（政策）を的確に把握し、（ただ事務処理能力が高いのではなく）0から1を生み出すような課題解決能力をもった職員を採用すること」を目的として、（1）インターンシップの採用、（2）職員採用候補者試験でのグループワーク選考の取り入れという2つの方策を実施する。</p>
事 概 業 要	<p>（1）インターンシップの採用</p> <p>二本松市の人口を増加させるためには市外からの転入者を増やすことが必須であり、そのためには「にほんまつに住みたい」と思えるような政策が必要である。これから就職先や定住先を決定していく大学生（大学院生）にインターンシップに参加してもらい、今自治体に求められることを政策として立案してもらうことで、実際の政策へのヒントを得ることができる。また、インターンシップを通し自治体（政治）に興味を持ってもらうことで、より意識の高い人が職員採用候補者試験に応募することや、若者の政治に対する姿勢を積極的なものとする効果も期待できる。さらに、職務体験をすることで、就職してからのミスマッチングを防ぐこともできる。</p> <p>（2）職員採用候補者試験でのグループワーク選考の取り入れ</p> <p>限られた予算の中で現状のサービスを維持していくためには、現在と違う視点から政策やその効果を捉える視点が必要であり、0から1を生み出すような課題解決能力を持った人材（職員）が必須である。また、今求められているサービスをどのように政策に反映させるか検討し、顕在化していない問題が発生した際に柔軟に対応するためには、より資質が高い職員が求められる。職員採用候補者試験でグループワーク選考を取り入れることにより、コミュニケーション能力・協調性や市職員になり行政に携わることへの本気度、柔軟性・発想力といった資質を持ち、課題解決能力が高い人材を採用することを図る。</p>
実 主 施 体	二本松市（総務部人事行政課職員係）
予 概 算 要	<p>（1）インターンシップの採用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通費 インターンシップに関する覚書を結ぶために大学等へ行く費用（大学等の所在地によって変動） ・宿泊費 インターンシップ時の宿泊費 480,000円（20人×4泊×6,000円） <p>（2）職員採用候補者試験でのグループワーク選考の取り入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要予算なし
効 果 の 検 証	<p>（1）職員採用候補者試験の応募者数及び採用辞退者数</p> <p>（2）数値に表すことは困難</p>